

三光院サロン 梵字を書いてみよう

梵字は古代インドで使われていた悉曇文字のことを言い、仏教と共にアジアに広まりました。現在、インドや中国の梵字は廃れてしまいましたが、日本では今でも大事にされています。

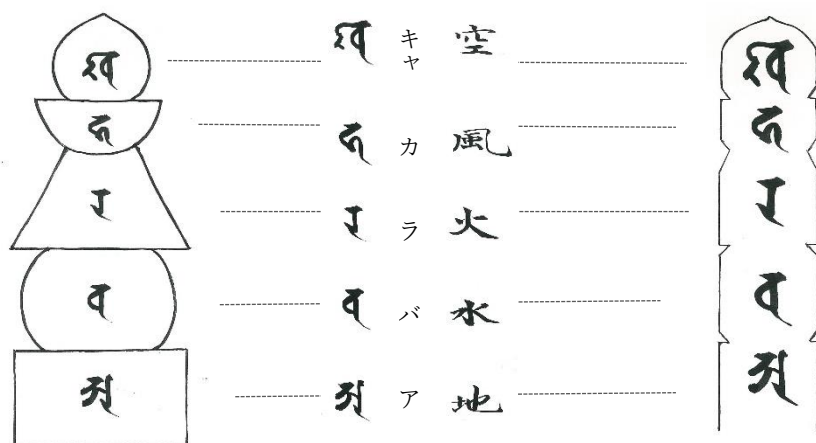
「種字」として神仏を一字であらわすとき、ご真言（仏に対する呼びかけの呪句）としても使われます。身近なところでは卒塔婆に書かれているのをよく見かけるでしょう。卒塔婆は仏塔と言う意味でお釈迦様の遺骨を納めた塔のこと、五重塔の由来とされています。五重塔をもとに五輪塔がつくられ、それを簡略化したものが卒塔婆になったと伝わります。

講座では梵字の歴史から独特な筆順を練習し、「十二支 守り本尊の梵字（種字）」が書けるよう学びます。

記

- 1) 日時 令和4年10月3日(月) 午前10時～午後4時(5時間、昼食持参・休憩1時間)
- 2) 場所 三光院 十月堂
- 3) 講師 新井田慈英(仏師) 天台宗僧侶、栃木県大慈寺法嗣(ほうし)。新たな仏像彫刻のほか、全国の仏像修復に携わる。梵字は幼少期から書き親しんでいる。
- 4) 参加費 6,500円(教材、資料代含む)
- 5) 募集人数 18名
- 6) その他
 - ・申し込みの方には9月下旬に、当日のご案内をお届けいたします。
 - ・参加された方に、「干支による守り本尊のお手本」をお書きします

五輪塔と卒塔婆



五輪塔(卒塔婆)は、仏教での宇宙を構成する五つの要素(空・風・火・水・地)を表しています。人間も五つの要素によって生かされていると考えられてきました。平安中期ごろ密教で創始され大日如来を意味しましたが、のちには供養塔・墓標などとされました。宗派にかかわらず、ご先祖様や故人を追善供養するために立てることが多いです。(宗派により考えや板塔婆に書かれる内容は異なります)

【申込方法】

- * メールで受付します E-mail : 3kouin.salon@gmail.com
- * 件名は「三光院で梵字」、本文に申し込む旨と ① 〒・住所 ② お名前 ③ 電話番号
をご明記の上、お申込み下さい。